

## 「現地を訪問して想うこと」

【匿名希望】

今回のツアーで一番、心に残ったことは、京セラ会長・稲盛和夫氏の言葉を借りて言えば、「利他の心」によるおたがいの支え合いが復興の源の一つである、ということです。

自宅・店舗共に大きな被害を受けながら、震災直後から現在に至るまで、校友の方から送られた作業着を各所に配布していらっしゃる立谷先輩、子供たちに安心して遊べる広場を提供すべく、りんご園の中を敷設中の大和農園の阿部さん始め、人の為に骨身を砕いていらっしゃる方々とお会いして、自分もどんな小さなことからでも「利他の心」で動かねばならないと痛感しました。以前は、光熱費の節約の観点からしか、節電はしていませんでした。でも、放射能汚染に苦しむ福島の実状を目の当たりにして、誰も悲しまず快適な生活を享受できるエネルギー供給の在り方を考えるようになりました。

また、何かを買う時は、福島産の物を買うように心掛けています。私はしがない囑託職員なので、買い物も少額で、たくさんのお寄付もできません。しかしながら、ゼロよりは1でも2でも可能なことから始めつつ、もっと大きな力を出せるように精進したいです。

この度、改めて、立命館大学で学んだご縁で素晴らしい出会いと勉強の機会を得られたことに心から感謝致します。皆様、本当に有難うございました。